

島崎 隆（一橋大学名誉教授）著

《オーストリア哲学》の独自性と哲学者群像 ——ドイツ哲学との対立から融合へ——

A5 判並製 200 頁 本体 2000 円

本書は、旧著『ウィーン発の哲学』（未来社、2004 年）の続編である。旧著の展開を踏まえて、それをより豊かに、個別の哲学者に即して詳細に展開した。全体的構想やオーストリアの歴史的・文化的などの幅広い背景については、旧著のほうが詳しいので、是非そちらをご参照いただきたい。さて以下に、本書の目的意識を四点簡潔に述べたい。詳細は以下の本文でも明らかになるだろう。

第 1 はオーストリアの哲学や思想（以下簡潔に、《オーストリア哲学》と表現する）の独自性を、いわゆるドイツ哲学と区別して展開することである。同じドイツ語圏であるということで、《オーストリア哲学》は何となくドイツ哲学と一体化されて論じられてきた。反省すると、ウィーンでの研究滞在前の自分がかつてはそうであった。あたかも《オーストリア哲学》などは無きがごとしであったのが事実である。もっとも、オーストリア本国では、ルドルフ・ハラーを始め、《オーストリア哲学》の独自性の研究は存在するし、その翻訳もあるが、日本の哲学界がそれを正当に理解し、受容しようとしめない状況である……（本書「まえがき」より）。

（主要目次）

- 第 1 章 《オーストリア哲学》の独自性と 19 世紀転換期（世紀末状況）
- 第 2 章 フリッツ・マウトナーと《言語論的転回》の開始
- 第 3 章 エルンスト・マッハの哲学とレーニンの批判
- 第 4 章 フェルディナント・エープナーにおける信仰のことばと形而上学批判
——時代の病理に抗して
- 第 5 章 マルチン・ブーバーの《対話の社会主義》
- 第 6 章 ウイトゲンシュタインはヘーゲル、マルクス、禅と融合可能か
- 第 7 章 新ヘーゲル主義の登場とポスト分析哲学
——対立から融合へ
- 第 8 章 アルフレート・アドラーの心理学の流行と現代
- 補論 プロレタリアートと宗教——オットー・パウアー

株式会社 創風社

東京都文京区本郷 4-17-2

振替 00120-1-129648

TEL 03-3818-4161

soufusha.co.jp

FAX 03-3818-4173

きりとり線

創風社刊
申し込み書

TEL 03-3818-4161

FAX 03-3818-4173

書店でご購入の場合、この用紙をお持ちください。

島崎 隆

『《オーストリア哲学》の独自性と哲学者群像』

ISBN978-4-88352-240-8

本体 2000 円（ ）部

創風社 図書目録 希望（ ）部

取り扱い書店名